

故杉本画伯の「図法螺貝」

母校・愛知工高で発見

美術館に寄贈

名古屋市中区の愛知工業高校で、卒業生で同市出身の洋画家、故杉本健吉氏（一九〇五～二〇〇四年）が描いた掛け軸「図法螺貝」

（二〇〇四年）が見つけられた。同校図案科（現デザイン科）の「図法螺貝」という名の

同窓会のために手掛けられたもので、会は十八日、杉本氏の作品を所蔵する美浜町美浜緑苑の杉本美術館に寄贈した。作品は縦四十四センチ、横五十三センチの墨彩画。



寄贈された「図法螺貝」の掛け軸＝美浜町の杉本美術館で

同窓会のシンボルだったほら貝の掛け軸が戦時中に焼失したため、前身の県立工業学校図案科卒業生の杉本氏が一九四九（昭和二十四）年に描いたとされる。その後は所在不明だったが、二〇一五年の

東山工業高校（名古屋市中千種区）との統合に当たって備品整理中の同校で十月、デザイン科教官室の金庫から発見。「アドバ」と改称された同窓会が寄贈を決めた。この日はアドバの勝崎芳雄会長（六九）らが杉本美術館を訪ね、掛け軸を同館の跡田直則常務理事に渡した。当面

は同館で展示し、企画展などでも活用する。同館は「外部で見つかる作品は珍しいのでありがたい」と感謝し、勝崎会長は「せっかくの発見。多くの人に見てもらえたら」と期待した。（吉岡雅幸）